岐阜市は斎藤道三や織田信長など名高い戦国武将が活躍した舞台です。道三・信長は何故岐阜市を選んだのでしょうか？
英雄たちが欲しがった岐阜！ その歴史を作ってきた武将や武士団、彼らの知られざる活躍を一緒にひも解いていきましょう。
身近なところにある歴史が、新たな気付きにつながるかもしれません。

竹腰氏・石川氏と岐阜市

岐阜市ぎふ魅力づくり推進部
文化財保護課
特任研究員 **内堀 信雄**

プロフィール
昭和34年 栃木県宇都宮市に生まれる
昭和61年 名古屋大学大学院文学研究科（考古学）卒業
岐阜市教育委員会にて信長公居館跡発掘調査などを担当。
主な著書
『東海の名城を歩く 岐阜編』（共編、吉川弘文館、令和元年）
『戦国美濃の城と都市』（高志書院、令和３年）

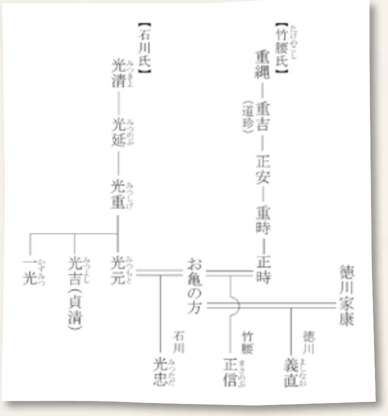
家康九男で尾張藩初代藩主徳川義直の母「お亀の方」には、義直の他に竹腰正信と石川光忠という二人の息子がいました。彼らの子孫は代々重臣として尾張藩を支え続けます。今回は竹腰・石川両氏と岐阜市の関係について、尾張藩士の系譜集『士林泝洄』や岐阜市に残る関連遺産を参考にご説明します。

1 竹腰氏の歴史

竹腰氏は宇多源氏佐々木氏の末裔で、近江国大原荘を領して大原と称します。大原氏一族の竹腰氏は美濃国守護土岐氏の被官となって美濃国芥見荘岩田村（岐阜市岩田）に移ります。竹腰重縄は佐々木八幡社を岩田郷に移し、その南西に堀と土塁で館を構えます。これとは別に、竹腰重綱が岩田村に移り、弟彦五郎尚綱が1500年に大垣城を創建したという伝承もあります。

重縄の息子重吉（道珍）は斎藤道三に仕えますが、斎藤道三と息子義龍が争った際は義龍に味方し、1556年4月20日の長良川の戦いで道珍は先鋒をつとめ、長良崇福寺前で戦死して立政寺に葬られます。

重吉の子正安は川手村に住み、日根野弘就と共に斎藤義龍とその息子龍興に仕えますが、1567年の織田信長美濃攻めにより龍興が没落した後は佐波村に潜居します。正安の子重時も佐波村に住み、信長、信澄に仕えます。後に重時は山城国の石清水（八幡山）に移り、子の正時は八幡宮社家志水宗清の娘（お亀の方）と結婚します。そして1591年、後に尾張藩重臣（付家老）となる竹腰正信が誕生します（図1）。



■図１ 竹腰氏・石川氏系図

2 市内に残る竹腰氏の遺産

『士林泝洄』には、竹腰氏が住んだ土地として岐阜市の岩田村、川手村、佐波村の3つが登場します。『岩郷土誌』によれば、岩田村の館は東西南北とも60間（108m）で、幅3間（5・4m）、深さ1間（1・8m）の堀が周囲にめぐらされていました。川手村、佐波村のどこに住んでいたのかはわかっていません。

長良川の戦いで竹腰道珍（道塵）が戦死したことは『信長公記』にも「一番合戦に、竹腰道塵、六百ばかり真丸になつて中の渡り打ち越し、山城道三の幡元へ切りかゝり、散々に入りみだれ相戦ひ、終に竹腰道塵合戦に切り負く」と書かれています。立政寺には「竹腰彦五郎」肖像画や日根野弘就らとともに「（竹腰）摂津守尚光」と署名された古文書が伝えられています。墓域の一角には中世五輪搭が集められ、「大垣城主竹腰摂津守之墓所」と記された石碑（1970年建立）が建っています（写真1）。

■写真１ 立政寺

3 石川氏の歴史

清和源氏の流れをくむ源有光は前九年の役の軍功により奥州石川郡（福島県）泉館を賜り、石川を名乗ります。有光曾孫の光治は、1221年の承久の乱後に美濃国厚見郡市橋荘の地頭となり、子孫は代々美濃に住みます。

戦国時代、光治子孫の鏡島城主光清は足利将軍家に仕え、鏡島弘法乙津寺を再興します。光清の子光延は織田信長に仕えます。その子光重は秀吉政権の重臣として活躍し、光重の子光元は兵庫県の龍野城主、光吉（貞清）は愛知県の犬山城主となりますが、二人とも1600年の関ヶ原合戦で西軍に味方したため、戦後没落してしまいます。光元はお亀の方と結婚（お亀の方は再婚）して1594年に尾張藩重臣石河氏の祖光忠を生みます。なお、光重のもう一人の子一光は1583年の賤ヶ岳の戦いで一番に戦場に駆け入りますが、その場で討死したため合戦で活躍した7人の武将「賤ヶ岳七本槍」には入りませんでした（図1）。

4 市内に残る石川氏の遺産

立政寺には石川光治の子孫とみられる義漑が寺に土地を寄進した文書が残されています。石川光清が居城とした鏡島城は乙津寺の隣接地にあったと伝えられていますが、遺構は残されていません。

鏡島弘法乙津寺には石川光延が描かせた石川光清肖像画が伝えられ、光清墓とされる大形の五輪搭が残されています（写真2）。石造物研究者の小野木学氏によれば、五輪塔の年代は13世紀中頃から後半頃とのことです。この年代からみると、鎌倉時代の乙津寺ゆかりの僧侶か武将の墓である可能性が高いと考えられます。

■写真２ 伝石川光清墓（乙津寺）

このように竹腰・石川両氏の先祖は岐阜市と深い関係がありました。そして、お亀の方を母とする藩祖徳川義直と竹腰正信・石川光忠の三兄弟が力を合わせて大都市名古屋の礎を築きました。ちなみに、近世を通じて竹腰氏は今尾（海津市）に、石川（後に石河）氏は駒塚（羽島市）に陣屋を構えていました。

＊次回は10月号です。お楽しみに

＊《参考文献》『士林泝洄（1）』『名古屋叢書続編 第17巻』名古屋市教育委員会、昭和41年 「岩田城と竹腰氏」『岩郷土誌』岩史誌編纂委員会、平成19年
原作西山ガラシャ・作画瀬知エリカ・監修原史彦『徳川家康とお亀の方』特定非営利法人 本丸ネットワーク、令和３年